

予科練



No.484 令和6年

9・10月号

- 連載《シリーズ海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑》No.27… 2
- 連載《シリーズ海軍飛行予科練習生遺稿》…………… 3
- 令和6年度評議員会議事録…………… 4
- 甲飛3期 磯貝 常雄 甥 磯貝 浩次郎…………… 11
- 彗星未だ還らず 或る予科練出身搭乗員の軌跡④………… 13
- 多田野語録…………… 19
- 雄翔館見学者所感…………… 20
- 事務局日誌…………… 23

公益
財団法人

海原会

予科練生を偲びて
予科練生を偲びて

海軍に

はつたつた

散華せ

さみらき

まき

せ

わ

高松宮妃殿下御歌

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行
予科練習生を偲びてよめる

海はらに

はたおほそらに

散華せし

きみら声なく

いく春やへし

この御歌は、高松宮喜久子妃殿下
の御直筆で、有栖川流と申しあげ、
妃殿下はその御宗家にあたられると
承ります。

海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑 留魂の碑 No.27



人吉海軍航空隊は、昭和十九年二月一日整備術教育練習航空隊として、熊本県球磨郡水上村川辺の高平原の台地に開隊した。

開隊時は普通科整備術練習生が入隊したが、五月十五日に人吉予科練一期生（乙飛二十二期相当）約九百名が入隊、続いて毎月一期宛入隊して、整備術教育が行われ、翌二十年三月教育中止になるまで、六千余名の予科練習生を実施部隊に送り出した。その後は、国民総武装用兵器工作、九州各地の水上特攻基地への防衛極力、松根油作業に従事した。昭和四十三年に予科練人吉会を結成し、思い出の地で培われた精神を祖国の進展に活かす決意と共に、当時親代わりの温情を受けた地元の人々に感謝をこめ、な

お滅私奉公の念に燃えて努力した若き日の記念としてこの碑を建立した。

- 所在地 熊本県人吉市城址公園原の城
- 建立年月 昭和四十六年八月二十二日
- 揮毫 「留魂」坂田道太氏
(元文部大臣)
- 問合せ 予科練人吉会長 岡本 弘氏
足立区大谷田一―一六―二四

海軍飛行豫科練習生

遺書 遺詠 遺稿 辞世

遺詠

◎故 中別府 重信 二飛曹 (二十三歳) 丙飛十六期 宮崎県出身

この日をば かねて覚悟の 電信が

桜花とは 母も 泣かなん

菊水三号第七建武隊 昭和二十年四月十六日零戦にて鹿屋発進
喜界島南東五十五哩および南五十哩の敵機動部隊に突入

◎故 新井 春男 二飛曹 (十九歳) 乙特飛一期 長野県出身

君知るや 出づれば又と 帰らねど

ほほ笑み育つ あらわしの心

菊水三号第七建武隊 昭和二十年四月十六日 零戦にて鹿屋発進
喜界島南東沖にて戦死

令和六年度 評議員会議事録

一日時

令和六年六月十五日（土）

二 場所

ホテルグローバルビュー

土浦

三 出席者

評議員定数七名

定足数五名

【出席評議員】

評議員 小野 昌美

評議員 湯原 弘

評議員 明石 英次

評議員 石引 大介

評議員 巻島 政美

【出席理事】

理事長 宮本 忠明

副理事長 星指 隆

副理事長 篠田 輝男

理事 平野陽一郎

理事 塚 純一

【出席顧問・参与】

顧問 六車 昌晃

参与 行方 滋子

議 事

【定足数の確認】

開会に先立ち、平野事務局長から定足数の報告があった。評議員定数七名中五名が出席、欠席二名で過半数が出席につき本評議員会は海原会定款第十八条第一項に照らして適法に成立することが確認できた。

【議長の選任】

平野事務局長は、評議員会出席者の中から、参与 行方 滋子氏を議長に指名し議場に諮ったところ、出席者全員異議なくこれを承認可決した。行方 滋子氏は議場において議長に就任することに同意した。

【議事録作成人及び 議事録署名人の指名】

議長は議案本審議に先立ち、評議員会の議事録作成人に平野陽一郎氏を議事録署名人に篠田 輝男氏及び塚 純一氏をそれぞれ指名し、議場に諮ったところ、出席者全員異議なくこれを承認可決した。議長は午前十一時評議員会の開会を宣言した。

第一号議案（その一）

「令和五年度事業報告」

議長は、当期（自令和五年四月一日至令和六年三月三十一日）の事業実施状況につき、平野事務局長を指名して報告を求めた。

平野事務局長は既配布資料に基づき、事業内容を読み上げながら説明した。

議長は報告内容について議場に質疑を求めたところ、湯原 評議員から、「海原会の公益財団法人としての運営は十分

に果たされており、大変結構な事である」との発言があった。また、「会員数の減少に対応するために、会員の種別や会費の見直しをしようか」という主旨の質問があった。議長は平野事務局長を指名して回答を求めた。

平野事務局長は、「これまでも会員の入会を促進するためには会員種別や会費の見直しを行ったが、あまり効果はなかった。しかしながら、再度見直しを検討する。」旨の回答があった。

議長は引き続き議場に質疑を求めたが特になく、質疑なしと認め議事を終了した。

第一号議案（その二）

「令和五年度収支決算報告」

議長は、平野事務局長を指名して令和五年度収支決算について説明を求めた。

平野事務局長は既配布の財務諸表について収支の詳細について説明した。

1 財産目録

2 貸借対照表

3 正味財産増減計算書

4 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

(規定により作成を省略しているため、注記で報告)

議長は、本議案は第一号議案(その3)「監査報告」について報告を受けた後に採決を行う旨を宣言して、第1号議案(その3)の審議を行った。

第一号議案(その三)
「監査報告」

議長は平野事務局長を指名して、令和六年監査結果について報告を求めた。

平野事務局長は、令和六年監査結果報告書を読み上げて監査内容及び結果について異常がなかったことを報告した。議長は、監査報告について議場に質疑を求めたが特になく、

質疑なしと認め議事は終了した。

次に、第一号議案(その二)

について財務諸表の個々について質疑を行ったが特になく、議長は「質疑なし」と認め四個の財務諸表を一括して審議する旨を議場に宣言した後、議案に賛成の評議員に挙手を求めたところ異議はなく出席評議員全員一致で承認された。

第二号議案(その一)
「令和六年度事業計画」

議長は、平野事務局長を指名して令和六年度事業計画について報告を求めた。

平野事務局長は机上に配布した令和六年度事業計画書(概要報告書)に基づき詳細を報告した。

議長は、令和六年度事業計画について議場に質疑を求めた。湯原弘評議員から、以下の発言があった。

①慰霊祭を行うにあたっての問題点の認識について

②慰霊祭支援要員の変化とOBの減少について言及し、「海原会支援体制の在り方検討」をOB会に求める必要がある。議長は、引き続き議場に質疑を求めたが特になく、「質疑なし」と認め議事を終了した。

第二号議案(その二)

「令和六年度収支予算」

議長は、平野事務局長を指名して令和六年度収支予算について報告を求めた。

平野事務局長は既配布した令和六年度収支予算書に基づき令和六年度収支予算の詳細について報告した。議長は、令和六年度収支予算について議場に質疑を求めたところ特になく、「質疑なし」と認め議事を終了した。

第三号議案

「常勤役員に対する報酬の支払い」

報酬の支払い

議長は、平野事務局長を指

名して常勤役員に対して報酬を支給することについて説明を求めた。

平野事務局長は、既配付資料に基づき①定款上の規定 ②常勤役員に対する報酬支給の必要性について説明した。議長は議場に質疑を求めたところ特になく、「質疑なし」と認め議案に賛成の評議員に挙手を求めたところ異議はなく出席評議員全員一致で常勤役員に対する報酬の支払いが承認された。

第四号議案

「令和六年度海原会定款の改訂」

海原会定款の改訂

議長は、平野事務局長を指名して令和六年度海原会定款の改訂について説明を求めた。

平野事務局長は既配布した資料に基づき、説明をした。議長が議場に質疑を求めたところ湯原評議員から「異議なし」とする旨の発言があった。議長は更に議場に質疑を求めた

ところ特になく、「質疑なし」と認め議案に賛成の評議員に挙手を求めたところ異議はなく出席評議員全員一致で承認された。

第五号議案

「役員及び評議員の報酬並びに費用規程の制定」

議長は、平野事務局長を指名して「役員及び評議員の報酬並びに費用規程」の制定について説明を求めた。平野事務局長は机上に配布した「役員及び評議員の報酬並びに費用規程」（概要説明書）に基づき説明をした。

議長が、議場に質疑を求めたところ小野評議員から「第三条の（報酬額の決定）において、算定の基準を茨城県最低賃金額とすること及び上限を六万円とすることを規定した場合、運用に融通性を欠くのではないか。」との指摘があった。

議長は平野事務局長を指名

して回答を求めた。

平野事務局長は「条項の記述に融通性を持たせるように修正する。」旨の回答があった。議長は議場に更に質疑を求めたが、特になく「質疑なし」と認め、賛成の評議員に挙手を求めたところ異議はなく出席評議員全員一致で承認された。議長は議案の一部を修正して議案は承認されたことを議場に宣言した。

またこれに伴い、海原会の内部規程「10評議員費用弁済規程」及び「11理事・監事費用弁済規程」は廃止する旨を合わせて議場に宣言した。

第六号議案

「副理事長の選任」

議長は、平野事務局長を指名して副理事長の選任について説明を求めた。平野事務局長は、既配布した資料に基づき令和六年度六月定例理事会において篠田輝男理事が副理事長に選任され、篠田理事が

議場において口頭により副理事長就任の承諾をした旨の報告がなされた。

議長は議場に質疑を求めたが特になく、「質疑なし」と認めて議事を終了した。

以上で、全ての議案について審議を終了したため議長は午後十二時三十分閉会を宣言し散会した。

以上、この議事録が正確である事を証するため、議長及び議事録署名人は記名捺印する。

令和六年六月十五日
公益財団法人 海原会

議長

行方 滋子

議事録署名人

篠田 輝男

議事録署名人

塚 純一

本議事録の作成にかかわる職務を行った者の氏名

議事録作成人

公益財団法人 海原会

理事

平野 陽一郎

次頁より、令和六年度評議員会に提出されました、左記の資料を掲載いたします。

財産目録

(令和六年

三月三十一日現在)

貸借対照表

(令和六年

三月三十一日現在)

正味財産増減計算書

(令和五年四月一日から

令和六年三月三十一日まで)



財 産 目 録
令和6年3月31日現在

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	手元保管	運転資金	84,123
預金	普通預金		894,505
郵便振替	三菱東京UFJ銀行	会費収入	852,175
流動資産合計			1,830,803
2. 固定資産			
(1) 基本財産			70,000,000
基本財産	普通預金	公益目的保有財産であり、運用 益を公益目的事業(公1～公3) に使用している。	70,000,000
	三菱東京UFJ銀行		
(2) 特定資産			
慰霊顕彰事業基盤整備 特定費用準備金	普通預金	特定費用準備金として公1事業 のために使用している	3,775,078
	常陽銀行阿見支店		
(3) その他固定資産			
構築物(山本五十六像)	茨城県稲敷郡阿見 町青宿121-1陸上自 衛隊武器学校構内 雄翔館前に設置	公益目的保有財産であり、予科 練記念館に設置して公一1事業 に使用している不可欠特定財 産である。	1,220,784
固定資産合計			74,995,862
資産合計			76,826,665
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
預り金			
流動負債合計			0
負債合計			0
正味財産			76,826,665

貸 借 対 照 表
令和6年3月31日現在

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	84,123	132,285	△ 48,162
普通預金	894,505	5,162,559	△ 4,268,054
郵便振替	852,175	513,712	338,463
現預金合計	1,830,803	5,808,556	△ 3,977,753
貯 蔵 品	0	0	0
仮 払 金	0	0	0
流動資産合計	1,830,803	5,808,556	△ 3,977,753
2. 固定資産			
(1)基本財産			
普通預金	70,000,000	70,000,000	0
基本財産合計	70,000,000	70,000,000	0
(2)特定資産			
慰霊顕彰事業基盤整備			
特定費用準備金	3,775,078	5,030,043	△ 1,254,965
(3)その他の固定資産			
土 地	0	0	0
建 物	0	0	0
構築物	1,220,784	1,370,127	△ 149,343
その他の固定資産合計	1,220,784	1,370,127	△ 149,343
固定資産合計	74,995,862	76,400,170	△ 1,404,308
資産合計	76,826,665	82,208,726	△ 5,382,061
II 負債の部			
1. 流動負債			
預 り 金			0
流動負債合計	0	0	0
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	76,826,665	82,208,726	△ 5,382,061
負債及び正味財産合計	76,826,665	82,208,726	△ 5,382,061
備 考	財務諸表に対する注記に記載しているため付属明細書は省略する。		

正味財産増減計算書(税込)
令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経 常 収 益			
基本財産運用益	[0]	[0]	0
基本財産受取利息	0	0	
普通財産運用益	[64]	[67]	△ 3
普通財産受取利息	64	67	
受取会費	[1,957,000]	[1,737,000]	220,000
募金収益	[0]	[0]	0
受取慰霊寄付金	[1,876,000]	[2,062,000]	△ 186,000
広告料収益	[208,000]	[243,000]	△ 35,000
雑収益	[189,000]	[18,080]	170,920
経 常 収 益 計	4,230,064	4,060,147	169,917
(2) 経 常 費 用			
事業費	[9,396,101]	[9,259,852]	136,249
慰霊顕彰事業費	(6,556,992)	(6,452,743)	104,249
慰霊祭費	2,108,431	2,161,946	△ 53,515
雄翔館等活動費	295,098	422,267	△ 127,169
遺族支援調査費	46,049	7,387	38,662
資料収集整理費	0	5,036	△ 5,036
関係団体費	273,418	167,300	106,118
慰霊顕彰事業基盤整備費	1,255,000	970,000	285,000
給料手当	568,989	645,411	△ 76,422
会議費	74,833	78,951	△ 4,118
旅費交通費	196,494	286,283	△ 89,789
通信運搬費	733,422	684,335	49,087
消耗品費	39,888	54,206	△ 14,318
渉外費	90,223	87,634	2,589
光熱水料	144,723	164,286	△ 19,563
租税公課	1,451	1,547	△ 96
印刷製本	3,551	1,329	2,222
会費受取手数料	44,657	34,203	10,454
顧問報酬	61,741	29,246	32,495
建物管理費	462,384	462,384	0
減価償却費	95,908	107,641	△ 11,733
雑費	60,732	81,351	△ 20,619
機関誌発行費	(2,700,956)	(2,766,891)	△ 65,935
機関誌発行費	1,503,019	1,504,013	△ 994
給料手当	264,284	299,792	△ 35,498
会議費	34,760	36,672	△ 1,912
旅費交通費	91,270	132,978	△ 41,708
通信運搬費	340,672	317,872	22,800
消耗品費	18,528	25,178	△ 6,650
渉外費	41,908	40,706	1,202
光熱水料	67,224	76,310	△ 9,086
租税公課	674	719	△ 45
印刷製本	1,650	617	1,033
会費受取手数料	20,743	15,887	4,856
顧問報酬	28,679	13,585	
建物管理費	214,776	214,776	0
減価償却費	44,549	49,999	△ 5,450
雑費	28,210	37,787	△ 9,577
支 援 金	(138,153)	(40,218)	97,935
青少年育成支援金	100,000	0	100,000
給料手当	8,417	9,547	△ 1,130
会議費	1,107	1,168	△ 61

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
旅費交通費	2,908	4,235	△ 1,327
通信運搬費	10,850	10,123	727
消耗品費	590	802	△ 212
渉外費	1,335	1,296	39
光熱水料費	2,141	2,430	△ 289
租税公課	22	23	△ 1
印刷製本	53	20	33
会費受取手数料	660	506	154
顧問報酬	913	432	
建物管理費	6,840	6,840	0
減価償却費	1,419	1,592	△ 173
雑費	898	1,204	△ 306
管 理 費	[216,024]	[203,279]	12,745
給料手当	44,300	50,250	△ 5,950
会議費	5,838	6,147	△ 309
旅費交通費	15,300	22,289	△ 6,989
通信運搬費	57,000	53,281	3,719
消耗品費	3,100	4,220	△ 1,120
渉外費	7,025	6,823	202
光熱水料費	11,270	12,791	△ 1,521
租税公課	113	121	△ 8
印刷製本費	277	104	173
支払手数料	15,322	10,158	5,164
会費受入手数料	3,477	2,663	814
保険料	0	-18,560	18,560
顧問報酬	4,807	2,277	2,530
建物管理費	36,000	36,000	0
減価償却費	7,467	8,381	△ 914
雑費	4,728	6,334	△ 1,606
経常費用計	9,612,125	9,463,131	148,994
評価損益調整前当期増減額	△ 5,382,061	△ 5,402,984	20,923
投資有価証券評価損益等	[]		
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 5,382,061	△ 5,402,984	20,923
2. 経常外増減の部			
(1) 経 常 外 収 益			
経常外収益計	0	0	
建物売却益	0	0	
土地売却益	0	0	
(2) 経 常 外 費 用			
経常外費用計	0	0	
当期経常外正味財産増減額	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 5,382,061	△ 5,402,984	20,923
一般正味財産期首残高	82,208,726	87,611,710	△ 5,402,984
一般正味財産期末残高	76,826,665	82,208,726	△ 5,382,061
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	
Ⅲ 正味財産期末残高	76,826,665	82,208,726	△ 5,382,061
備 考	財務諸表に対する注記に記載しているため付属明細書は省略する。		

甲飛3期

磯貝常雄 甥

海原会 会員 先祖研究家

磯貝 浩次郎

【研究活動の目的】

・私の先祖たちが海軍でどんな事に従事し、どんな難局に直面し、どう乗り越えようとしたのかを知り自分の人生の糧としたい。

・常雄の最後は軍歴記載通り、フィリピン341空クラーク山中交戦死であったのかを解明したい。
(諸説あり)

【投稿に際して】

今年5年ぶりに予科練戦没者慰霊祭前夜の、戦没者を偲ぶ集いに参加させて頂きました。その際同じテーブルに居合わせた、甲飛13期故工藤拓二様のご子息、工藤垂穂様(機関誌編集委員)から海原会機関誌「予科練」へ記事投稿のお誘いがございました。



【研究活動のきっかけ】

ここに一枚の写真があります。

会員の皆様にお伝え出来る戦歴もないため、一度はお断りしましたが、今年の、偲ぶ集いは5年前に比べ明らかに遺族、同窓の出席者が減っており、私の記事を読まれて似たような境遇の方の参加が少しでも増えればとの思いでお引き受け致しました。
叔父磯貝常雄の事は初めて活字化致します。

できれば乙飛の一桁の期や、甲飛1〜3期のご遺族が複数参加して頂けたらと期待しています。

長男常雄(甲飛3期 叔父)、母はるゑ(祖母)、5男光政(父)です。

下士官の装いであるとの事です。それから昭和16年以降の写真であると思っております。私の活動は8年前この写真から始まりました。私の祖父も海軍下士官でしたが、戦後叔父のことは何も語りませんでした。よってわが一族で海軍が話題になることはありませんでした。父は六男一女の下から二番目でまだ弟が生まれておらず幼かった事から母と一緒にいる事が多かったようです。

海軍軍人であった祖父、大祖父、叔父に私が興味を持つようになったのは親父の兄弟が次々と他界し存命者が兄弟七人中、父と弟の二人になった平成二十八年頃です。

それまでは自分ありきの考えで正直興味がありませんでした。背景には先の戦争に負けたこと、当人達が他界し、唯一の生存海軍経験者であつ

た祖父が多くを語らなかつた事があつたと思います。

父とは同居しておりましたが、私が仕事で忙しく、余り会話する機会がありませんでした。

しかし、今のうちに聞いておかなければ子孫にも話せなくなるの思いから、父にできるだけ聞いておこうと思ひました。

昭和12年生まれのお父は当時幼かつたことから母におんぶされ常雄の赴任地である横須賀、宇佐、松山、岩国とほとんどの常雄の赴任先に行つたそうです。

【常雄の調査】

しかし叔父常雄に関して、父の覚えているのは「偵察」「目が悪くなった」「フィリピンにて戦死」といった断片的な情報だけでした。

常雄の所属や、階級などについて父に聞いても分からず、やみくもにインターネットで検索しましたが海軍航空隊の

情報はチンブンカンブンでした。(笑)

そのうち「予科練外史」が公式資料であることを知りました。「叔父が載っているのではないか」と思い、オークションで落札、あの辞書にも匹敵する六巻を目を皿のようにして、あるかどうか知らない「自分の苗字」を探しました。すると四巻に甲飛3期「岐阜・磯貝常雄」の文字を見つけ、よく分かりませんでした。が、この重そうな集団に連ねている叔父の名前に鳥肌が立ちました。同時に「甲飛3って?」「生き残りはいるのか?」とか様々な疑問が湧いて出てきました。

インターネットで茨城県阿見町に予科練平和記念館があることを知り平成二十九年二月、仕事で関東に立ち寄った機会を利用し、土曜日に訪問致しました。

すると職員の方が展示していない甲飛3期「高松さん」という方が書かれた甲飛3期

の本を見せてくれました。同期の戦没者リストの一番最後に「昭和十七年五月航空兵器に転科後戦死と聞く」とあり、これまた実際記載された情報の重さに衝撃を覚えまして。更に「昭和十七年五月に何があったのか」「航空兵器とは」「どこでどのように戦死したのか」などまた疑問だらけです。

ブログに甲飛3期生のことが書かれた記事を見付け発信者「S☆N☆C」とみーさんこと富澤奈津子様に質問しました。本当にありがたいお方で、子孫や近親者が予科練の先祖を調べる時、最初にお話を聞くべき方のお一人だと思っています。最初の慰霊祭で複数の戦史家をご紹介頂き、叔父の最後の赴任地フィリピンⅡ比島の背景が少しずつ分かってきました。

そして厚生労働省に軍歴証明があるはずとの事で申請し半年程で封筒が届きました。

軍歴証明の封筒には両面カラーコピーの証明書と添え書きが入っており、各航空隊を渡り、航空兵器に転科したところ、三四一空に所属し比島クラーク基地で昭和二十年四月二十四日に交戦死と記載されていました。水に濡れ焼けた茶黒いボロボロの紙にこの証明書が過ごしてきた運命、歳月の重さを感じました。これが今のところ唯一の公式資料であると思います。

【海原会への参加】

調査を始めてから、海原会のこと、また春に慰霊祭が行われていることを知りました。が「自分は会員になるのに足るのか」という思いがあり中々エントリーに至りませんでした。

しかし想いは消えず二年後、父に「行くか?」と尋ねたところ「行く」との返事がありましたので遂に会員になりました。平成三十年、三十一年の2回八十歳となる父と岐阜より茨

城県阿見町で開催された予科練戦没者慰霊祭に参加させていただきました。自衛隊の敷地内で行われたその盛大さに圧倒され、父はとても喜んでおりました。多分常雄との思い出を七十年以上心にしたためており、この機を逃したら慰霊する機会が無いと思ったのでしよう。



予科練指定食堂「ほたて」の前で 父 磯貝光正

しかし以降コロナ期に入り参加出来ず残念ながら父は昨年十二月に他界しました。平成三十一年酒保「ほたて」前で満身の笑みの顔写真が遺影となりました。多分天国で常

雄と逢い「予科練慰霊祭参加」を報告していることでしょうか。

また会員になり名誉会長に甲飛3期 前田武さんが在任されている事を知りましたが遂にお会いすることは叶いませんでした。たればではありませんが、あと十年早ければ前田武さんや同期のどなたかにお会いし話が聞けた可能性があると思うと残念でなりません。

海原会会員になり慰霊祭に三度参加させて頂き切に感じましたが、予科練前期の関係者参加が無く残念でした。多分私と同じで子孫である方が知らない、興味はあっても行動の始めや海原会の存在、参加に至るハードルがあるのだと思います。

慰霊祭は私のような戦没者の遺族や、その子孫が参加するのが基本だと思いますので、遺族達と交流が出来ましたら、海原会の存在や慰霊祭について

て伝え、一人でも多くの参加者が参加して頂ければと思います。

【叔父の調査】

・「ああ予科練」「筑波山宣候」に常雄が少しだけ載っております。

・有識者の計らいで「飛練時の成績」を知りました。

・同県の甲飛3期「山田大」のアルバム入手致しました。

これは後日、記載させていただきます。

終わり

彗星未だ還らず

或る予科練出身

搭乗員の軌跡④

佐藤 剛

【「い号作戦」に参加】

ガダルカナル島戦以後、米豪連合軍の戦力は拡大され反攻攻勢の兆しが顕著となつ

た。一方、珊瑚海海戦、三次に亘るソロモン海戦、南太平洋海戦等で多くの熟練搭乗員を失った日本海軍の空母航空兵力は、漸く再建の目的が立つてきた状況であった。

しかし、このままでは連合軍に制海空権を奪われかねない強い危惧を抱いた山本五十六司令長官は、一部の幕僚の反対を押し切り、母艦航空部隊を前進基地であるラバウルに集結し、基地航空部隊と合同でガダルカナル島周辺とニューギニア東部に展開する連合軍の海空戦力を一挙に壊滅しようとする作戦を立て、長官自らラバウルに進出し陣頭指揮を執った。

作戦期間は昭和十八年四月五日から二十日にかけて実施され、機動部隊（空母瑞鶴、瑞鳳、隼鷹、飛鷹）と基地航空部隊との合計戦力は約四百機となる大航空部隊となった。

作戦名称はX作戦（ガダル

カナル島方面攻撃、機動部隊と基地航空部隊連合）、Y作戦（ポートモレスビー攻撃、機動部隊と基地航空部隊連合）、Y1作戦（ラビ攻撃、基地航空部隊担当）、Y2作戦（ブナ攻撃、機動部隊担当）とされ、伯父はこのうちX作戦とY2作戦に参加している。

一連の作戦での戦果は日本側発表で巡洋艦一、駆逐艦二、輸送船十五隻の合計十八隻を撃沈し、輸送船八隻を大小破させ、百三十四機の飛行機を撃破破したという。だが連合軍の実際の損害は駆逐艦、海防艦、タンカー、輸送船、各一隻が撃沈され飛行機の損害は二十五機が撃墜・撃破され僅少な損害だった。日本側の損害は零戦十八機、艦爆十六機、陸攻九機の合計四十三機に上った。

(注)18年4月7日瑞鶴飛行機隊戦闘行動調書より

小隊	機番	操縦員	階級	偵察員	階級	備考
21	1	高橋 定	大尉	田中 力	飛曹長	
	2	山中 隆三	二飛曹	重近 勇	一飛曹	
	3	大川 豊信	二飛曹	黒木 壽三	二飛曹	
22	1	福井 斉	上飛曹	清水 竹志	飛曹長	未帰還
	2	伊浜 兵一	飛長	北 則光	二飛曹	
	3	下川部春夫	一飛曹	飯田 良一	飛長	
23	1	大石 忠敏	上飛曹	武藤 彌三	飛曹長	
	2	佐々木正秋	上飛曹	田中 清喜	一飛曹	
	3	宮 耐吉	飛長	南本 幸男	二飛曹	未帰還
24	1	平原 政雄	大尉	重近 勇	一飛曹	
	2	田中 孫治	二飛曹	坂田 清一	一飛曹	
	3	田中 康則	飛長	宮島 二郎	飛長	未帰還
25	1	畠山 尚	上飛曹	米田 信夫	中尉	
	2	矢野 正一	二飛曹	伊藤 壽	飛長	
	3	橋本 俊治	飛長	大深 正幸	飛長	
26	1	田中 吉治	飛曹長	倉田 三郎	上飛曹	
	2	櫛 栄市	上飛曹	本田 富重	二飛曹	

「ガ」島方面「ツラギ」在泊敵艦船攻撃のため、ブイン基地を発進。
 グラマン戦闘機2機の攻撃を受けたが1機を撃墜。
 大型輸送船、中型輸送船、小型輸送船の各1隻を撃沈。
 中型輸送船、小型輸送船の各1隻を大破させ、大型輸送船1隻を小破させた。
 艦爆隊3機が未帰還となった。
 本攻撃は大本営発表により「フロリダ島沖海戦」と命名された。

(注)18年4月11日瑞鶴飛行機隊戦闘行動調書より

小隊	機番	操縦員	階級	偵察員	階級	備考
21	1	高橋 定	大尉	甲田 力	飛曹長	不時着
	2	山中 隆三	二飛曹	重近 勇	一飛曹	未帰還
	3	大川 豊信	二飛曹	黒木 壽三	二飛曹	
22	1	大石 忠敏	上飛曹	武藤 彌三	飛曹長	
	2	佐々木正秋	上飛曹	田中 清喜	一飛曹	
	3	伊浜 兵一	飛長	北 則光	二飛曹	未帰還
24	1	平原 政雄	大尉	水越 良一	上飛曹	
	2	田中 孫治	二飛曹	坂田 清一	一飛曹	
25	1	畠山 尚	上飛曹	米田 信夫	中尉	
	2	矢野 正一	二飛曹	伊藤 壽	飛長	
	3	橋本 俊治	飛長	大深 正幸	飛長	未帰還
26	1	田中 吉治	飛曹長	倉田 三郎	上飛曹	
	2	櫛 栄市	上飛曹	本田 富重	二飛曹	
	3	山本 敏	飛長	萩尾 隆	飛長	

指揮官機発動機不調のため「スルミ」に不時着。「オロ」湾沖航行中の輸送船、中小各1隻及び「ボートハーベイ」在泊の中型輸送船1隻を攻撃し、計3隻を撃沈。敵P38 5機と交戦、P40 もしくはP39 31機と空戦し、この際被弾機あり3機自爆と行動調書に記載あり。

【山本五十六司令長官の戦死と同期生の死】

「い号作戦」は、四月十六日をもって終了し、十八日、山本連合艦隊司令長官一行は、前線視察と士気を鼓舞するため、一式陸攻二機に分乗し、零戦六機の護衛のもとにラバウル東飛行場からブインに向け出発した。この空域は海軍の制空下にあり安全地帯とされていた。

ところがこの行動は、米側に暗号解読されており、予定コースにP38戦闘機を待機させ、ブイン基地到着目前の地点で襲いかかり一式陸攻は二機とも撃墜された。

山本長官が搭乗する一番機は全員戦死し、二番機は宇垣纏中将(参謀長)、北村元治少将(主計長)、林 浩二飛曹(操縦)以外は戦死した。この二番機の主偵察員で機長を務める谷村博明一飛曹は乙種九期出身である。

「い号作戦」当時、山本長官はラバウル基地を発進する

攻撃隊を見送るのが常だったと言われる。伯父も山本長官の見送りを受けて決意を新たにしたものと思像している。

余談になるが六機の護衛戦闘機のうち最年少（当時十八歳）であった杉田庄一飛長は、丙飛予科練三期出身で新潟県東頸城郡安塚村（現上越市）の生まれであった。その後フィリピンや三四三空紫電改部隊で撃墜を重ね、「空戦の神様」と称されたが、昭和二十年四月十五日、迎撃のための離陸途中、グラマン戦闘機の銃撃を受け戦死した。戦死後第五航空艦隊司令長官宇垣纏中将から発せられた布告文によれば公認撃墜機数は単独で七十機、共同で四十機とある。

「い号作戦」当時、瑞鶴に所属していた乙種九期同期生には、戦闘機隊の大石芳男一飛曹と上沼周龍一飛曹がいた。また、空母瑞鳳戦闘機隊には森田守一飛曹がいた。

伯父が参加した昭和十八年二月四日と七日の「ケ号作戦」には大石一飛曹が援護に就いた。「い号作戦」時の四月七日のフロリダ沖海戦には大石、上沼、森田の各一飛曹が援護に就き四月十一日の「オロ湾攻撃」にも三人の同期生が援護に就いた。

残念ながら四月十一日の攻撃で、上沼周龍一飛曹（長野県出身）は未帰還となった。瑞鶴戦闘機隊の上沼周龍一飛曹と瑞鳳戦闘機隊の森田守一飛曹は親友であり、上沼一飛曹は戦死する前日、森田一飛曹に一枚の紙片を渡したという。その時のエピソードについて戦後歴戦の戦闘機搭乗員である岩井 勉氏は著書「空母零戦隊」で紹介している。内容を転記すると

「ガダルカナル出撃の前夜だったと思う。われわれ同じ中隊の者が数人で、一杯やっている席に、他部隊の上沼周龍兵曹がやってきた。彼は予

科練の後輩（乙種九期生）だが、その席に彼の同期の森田兵曹がいた。上沼兵曹は森田兵曹に一枚の紙片を差し出し『森田、おれが死んだら、おれのはなむけにこの歌を歌ってくれないか』

なんだこれ！貴様明日戦死するつもりなのか、馬鹿野郎、おれの方が死ぬかもしれないじゃないか」

みるとその歌詞は次のようなものであった。

一、ソロモン群島のガダルカナルへ今日も空襲大編隊翼の二十耗雄たけびあげりや落ちるグラマン シコルスキ

二、につこと笑ってダイブにはいる友の艦爆勇ましやのはる黒煙消え去るあとに見たか轟沈あっぱれだ

三、花は桜木戦闘機乗りは若い命を惜しみやせぬ 花のつばみの二十才で死ぬも何の

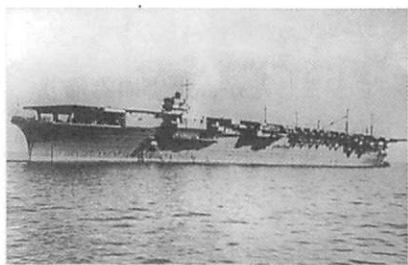
惜しかる皇国のため

翌日、上沼兵曹は零戦に乗り出撃したまま帰ってこなかった。死については、飛行機乗りである以上誰もが超越していることであったが、何故か、その夜のことは強く印象に残った。

森田兵曹をはじめ私たちは、この歌詞に海軍独特の節をつけて、毎晩歌っては上沼兵曹の霊を慰め、且、自分たちのはげみとした。上沼兵曹は二十二才であった。森田兵曹もその後、他方面の戦闘で戦死したと聞いている。」

伯父は同期生の戦闘機搭乗員に護られ生還を果たしたと言えよう。

「瑞鶴」では艦爆隊と戦闘機隊の居住室は隣接しており、大石一飛曹や上沼一飛曹とは同じ瑞鶴所属の予科練同期生として旧交を温めたのではないかと思われる。



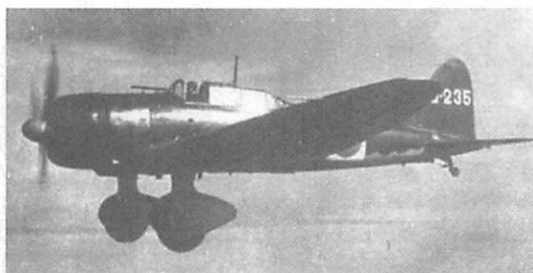
瑞鶴：

日本海軍の主力空母でありミッドウェー海戦以外の全ての機動部隊の戦闘に参加し、空母の中でも最大の武勲艦といわれた。

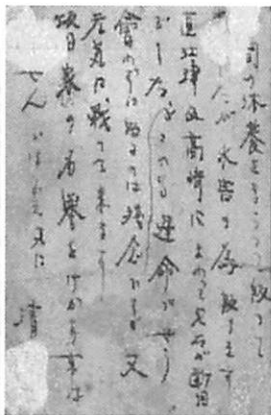
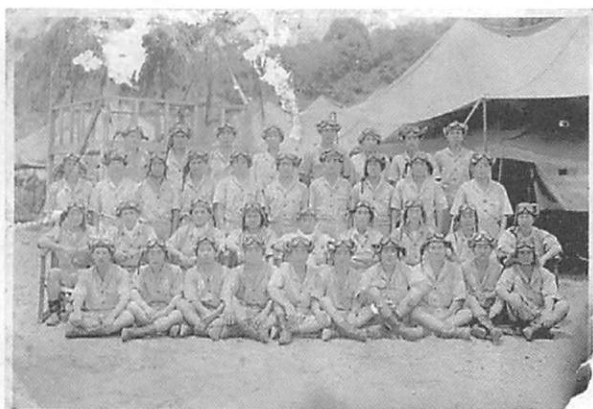
（注）森田守（長崎県出身）
昭和十九年六月十九日マリアナ沖海戦で戦死。「い号作戦」以降の戦歴については確認できていないが、歴戦の戦闘機乗りとして活躍したものと思う。

（注）大石芳男（静岡県出身）
昭和二十年五月四日神風特別攻撃隊第十七大義隊の直掩として沖縄沖の敵艦船に突入。夕方戦果確認のため単機で台湾宜蘭基地を発進後行方不明となり戦死と認定された。（戦死後任官海軍中尉）記録不備のため確認された撃墜数は十一機とされているが、実数は十五機以上と推定されている。瑞鶴戦闘機隊のトップエース。

九九式艦上爆撃機：太平洋戦争中、全戦線で終戦まで使われた急降下爆撃機。戦争中盤以降、後継機の彗星艦爆の実用化が遅れたことと、敵戦闘機の性能向上などにより被害が多くなり、搭乗員から自嘲気味に「九九式棺桶」と呼ばれることもあった。



「い号作戦」当時の瑞鶴艦爆隊員の集合写真。伯父は第3列の左から四人目に写っている。「い号作戦」終了後、伯父は特修科飛行術練習生として、高橋隊長は横須賀航空隊の飛行隊長として瑞鶴を去ることになった。写真に写っている大半の搭乗員が昭和十八年十一月から開始された「ろ号作戦」に参加し戦死した。



（注）「ろ号作戦」とはニューギニア方面に対する航空撃滅戦。「い号作戦」と同様に機動部隊の搭載機を陸上基地に揚げ、修理のため「い号作戦」に参加できなかった翔鶴の飛行機隊とともに参加した。第一次から第三次に亘るブーゲンビル島沖航空戦で空母部隊は百七十機の搭載機のうち百二十機を失った。艦爆隊の損耗率は八十四%にも上った。

写真には次の文が添えてあった。

「束の間の休養をもらって帰ってきましたが、水害の為帰ります。直江津及び高崎にまわって見たが駄目でした。會わずに帰るのは残念ですがこれも運命でしょう。又元気に戦って来ます。坂田家の名誉を汚すことはしません。ではお元気に 清一」服装からして「い号作戦」終了後、瑞鶴が内地に一時帰還した際に休暇をもらって帰省しようとしたものと思われる。一目家族に会いたかったことであろう。

【厳島神社にて同郷の町谷昇次兵曹に偶然出会う】

昭和十八年七月、伯父は参拝に訪れた厳島神社にて同郷の町谷昇次兵曹（空母翔鶴艦上攻撃機操縦員）と偶然出会い記念写真を撮っている。そ

の時の状況について町田氏の著書「最後の雷撃機」で次のように記述されている。

「昭和十八年七月、瑞鶴と、翔鶴、瑞鳳の航空母艦を含む私たちの機動部隊（第一航空戦隊）は米国の母艦部隊と対峙するため、南洋群島のほぼ中央にあるトラック島に向け、日本を発つことになった。七月に入ったある日、武運長久を祈るため、広島島の厳島神社に参拝にいくと、偶然同郷で、しかも近所の坂田清一君（乙飛九期）に会った。そこで鹿に煎餅を食べさせながら「日本よさらば」の記念写真を撮った。彼は航空母艦瑞鶴の艦上爆撃機の偵察員とのことだった。こんなところで、しかも日本を発つというこの時に彼に会うとは全く不思議だった。彼が搭乗員になったことは聞いていたが、僚艦の瑞鶴に乗っているなど夢にも思わなかった。これはきっと神様の御引き合わせと思

い、お賽銭を弾み、参詣した。」

伯父は、自分より三年早く海軍に入った町谷さんに憧れていたようで、予科練に入隊するときの駅頭の挨拶で、町屋さんのような立派な軍人になりたいと決意を述べたという話もある。



昭和十八年七月厳島神社での撮影、左が町谷兵曹。

町谷兵曹は大正九年新潟県新発田町に生まれ、昭和十年横須賀海兵団に入隊後、海軍通信学校を経て、昭和十三年二月、四十三期操縦練習生となり、艦上攻撃機の操縦員となる。

伯父と別れた後、ブーゲンビル島沖航空戦に参加、被弾し海上に不時着水し、からくも生還する。その後の航空戦でも奇跡的な生還を遂げた歴戦の艦攻搭乗員。戦後大澤と改姓し、航空自衛隊に入隊、昭和四十五年五月、三等空佐で退官。退官後は平成六年六月まで民間会社に勤務した。

続く

学を為す・

故に書を読む

特別会員

多田野 弘

「学を為す、故に書を読む」は、幕末の儒者佐藤一斎の言葉である。学ぶために書を読むことであるが、ここでのいう学とは知識を得るのみではない。自分をつくるためである。書を選んで読み、行動に移して自分がつくりあげられる。

私たちは誰もが、自分をよくしたいし、もっと伸ばしたいと望んでいる。また、それを学ぶ書は巷に溢れている。しかし、その書をいくら読んでも、実行に移さない限り身につかない。それらの書から、どうすれば自分がよくなるかを知識として頭で理解しても、

何故か行動に移せないでいる。それを行動に移し、続けていくのは意志が関係しているのではないか。その意志の強さが「三日坊主」になるか「やり通せる」かになっている。その分かれ道は、意志が自分のどこから出てきているかの出場所如何によると思う。

その出場所は二つあって、心（アタマ）から出る意志は弱く、魂（肝）から出る意志は強いといえる。ところが、私たちは自分で意識できる心というものが、精神作用の凡てだと思い込んでいて、魂なるものの存在をアタマから否定してしまっているが、心と魂は別物である。

私たちは、「魂が常に目覚め、冴えている人」を肝のすわった人と称している。重大な意思決定を難なくつくり出す人である。これの反対が、

肝がすわってなくて、心が働かず、騒ぎすぎて自分を処理しかねている人である。

「肝のできた、魂の働いている人」は、心がムダに動くことがないから、不動心を持つことができる。「虚心」にもなれ、怒りや恐れで心が波立つことがない。また、勘が鋭い。

したがって、肝が座っている魂が常に目覚めている人は、なにか「やるぞ」という決意は勿論心とするのだが、それを魂に聞かせ、魂が受け取ることによって強い意志になり、「やり通す」ことが容易になる。しかし、魂が眠っているとき心の決意を「聞いてくれない」から、折角の決意も三日坊主に終わってしまうことになる。

楽しくないことは長続きしないのも事実である。例えば、

早起きを励行し、これを何十年も続けている人を「意志の強い人だなあ」と感心するが、本人は気持ちがいいから続けているのである。それを無理なのであれば、続かない。「気持ちがいい」のだ。気持ちがいいから長続きする。

ジョギングを毎朝続けている人を見ても、走るのが苦痛と感じる人の目には「凄意志力だなあ」と映る。本人は気持ちがいいから走っている。走ること自体が楽しいし、走り終わった後の快さを知っている。だから長続きする。何事も楽しくないことは続かない。私は楽しいと感じ、継続する快さを知る一人である。

私は戦場で、何度も死に直面する間に、躊躇することなく死を受け容れることができた。その時に私にそうさせた

「何物か」が「魂」と呼ぶべきものと確信したのは、先哲の書からである。先人の書を読み、自分が魂の存在であることが間違いないと知り得た時の喜びは大きかった。10歳の今も、読みたい書が多

雄翔館見学者所感文

続く

くある。日々書を読み、感銘を受けた部分は抜き書きして、自らに刻み込んでいる。命の限り書を読み、自らを高めていくことに寧日がない。

ネットで「特攻の島」といマンガを読みました。予科練に入ったものの乗る飛行機がなく回天搭乗員になった若者の物語でした。何のために生き、何のために死ぬのか自問自答しながら訓練に明け暮れ、いよいよ出撃。しかし、故障のため出撃できずに戻ります。死なずに帰還した者に対する冷遇……。

現代であれば、パワハラで訴えられるような行為も当たり前に行われた時代です。「生

きろ」と戦友に言われ、その戦友は主人公のために戦死。回天を製作した士官も同じようなことを言い、戦死しました。敗戦前、二度目の出撃の頃には、入隊直後の幼い面立ちとは打って変わって、まるで仙人（悟りを解脱したような）の面立ちでした。家族を空襲で失った彼にはもう失うものはありませんでした。そのようなマンガを読んで、またここに訪れました。こ

英霊に感謝いたします。

のような歴史的事実を子供達にも伝えて下さい。

令和五年十一月

茨城県土浦市 佐賀様

死を覚悟しながら、日本の国民（父、母、兄弟）の為に無心で戦ってくれた若者に頭が下がります。この犠牲があったからこそ戦後の日本の繁栄があったと思います。我々は、この事を忘れてはなりません。本日の見学者は少ないですが、もっと沢山の方々に訪れて欲しいと願います。

令和五年十一月

福島県いわき市 高橋様

本日、久々に見学させて頂きました。今回で五回目くらいだったと思います。いつも思うことは、当時の二十歳前後の若者が国の為に命を落としたことは本当に敬意を払う

ばかりです。先人あつての今の我々が平和に暮らせています。感謝でしかありません。戦後の日本は平和ボケして、先の大戦を知っている国民が減っています。当時の若者達がなぜ戦場に行かなければならなかったのか、我々は事実を知らなければなりません。戦後生まれの私達は、この戦争のことを学校ではほとんど学んでいません。「第二次世界大戦や太平洋戦争」という名称で教科書には出てきますが、本当は「大東亜戦争」だということを教えるべきです。日本が自存自衛のための戦争であつたことを改めて教育すべきだと思いました。

また時間があれば来館したいです。

令和五年十一月

千葉県松戸市 大倉様

軍隊や戦争がすごくかつこ
よく、とくに攻撃機や戦闘機
がすごくかつこよくて、一瞬、
自衛隊に入って、人々を守り
たいと思いました。こんな若
いの命はってすごいなと感
動しました。こういう物たち
を掲示していただき、まこと
にありがとうございます。す
ごく勉強になりました。

令和五年十一月

千葉県栄町 松永様

(小学生)

戦争が、もうおきないでほ
しいです。そして、昔にどん
なことがあったのか調べたい
です。

令和五年十一月

住所不詳 森様

直接に戦争体験者ではあり
ませんが、現状世界情勢を考
えますと、戦争の再熱？恐い

です。日本は、戦争しない事
がかかげられているのに、戦
争に向かっている様に思えて
なりません。議員さん達、若
者達、皆さんこの見学をさ
れて、よくよく考えていただ
きたいですね。

涙なしには見られません。

この若者たちの顔を見て……。

令和五年十一月

東京都中野区 半田様

私は、今二十一歳の大学生
ですが、同年代の方たちが戦
争で命を落とす、自ら志願す
るといのが、今を生きてい
る私には考えられません。こ
こに来て本当に戦争はあった
んだと、こんなにも亡くなっ
てしまった人がいたのだと改
めて感じました。ロシアとウ
クライナの戦争もそうですが、
人の命を奪う戦いごとは本当
にしてはいけないことだし、

そういったことを許さない雰
囲気作りが大切だと思いまし
た。また、この戦争を風化さ
せないことも大切であると思
います。

令和五年十一月

群馬県前橋市 山藤様

初めて来ました。叔父の写
真を見てびっくりしました。

ありがとうございます。

令和五年十一月

群馬県太田市 山藤様

皆さん優秀な方が亡くなっ
てしまわれました。

一日一日生きます。

令和五年十二月

茨城県水戸市

雄翔館を見学させていただ
き、二十歳前後の若人がどの
ような思いで戦ったかを知る
ことができました。「最期ま

で家族や大切な人と思う気持
ち」決して忘れてはいけない。
世の中が平和でいられるのも、
一人一人の願いがあったから
です。

後世に伝えていく為にも、
雄翔館が今後も続くことを心
から願っています。

心が温まる見学となりました。

令和五年十二月

茨城県石岡市 村田様

雄翔館の入り口には特攻隊
の人の写真が飾っており、な
んで怖いはずなのに笑顔なん
だろうと思いました。一人一
人の写真を見ているとすごく
辛い気持ちになりました。遺
書などを見ていると一人一人
思いがすごい込められていて
すごく心が痛くなりました。
でも、今こんなに平和な日本
があるのは、昔の人たちのお

かげなので、今を全力で生き
ます。

戦争は、絶対にしてはいけ
ない、昔の人達がつないでく
れた日本を大切にする。

令和五年十二月

茨城県阿見町 鳥島様

昔の人が居るからこそ、今
の日本があると思います。今
の生活を幸せに大切に生きて
いきたいと思っています。

この思いが届くわけではない
けど、本当に日本を支えてく
れて、大事に思ってくれて、
人々のことを思ってくれてあ
りがとうございます。
今を大切に生きます。

令和五年十二月

茨城県阿見町 會田様

ごい力ないが、とりま（と
りあえず、まあ）すごい。

それだけは言える。「永遠

の0」とか、戦争の話が好き
で、歴史の教科だけは、八十
五点取れました。普通に思う
のは、日本のために死ねるの
がすごい！

自分から命を落とせるのが
どれほどすごいことか改めて
実感した。

また、十年後でも来ようかな
令和五年十二月

茨城県土浦市 菅谷様

私は、小さい時から父に戦
争のことをたくさん聞いてい
ました。先日、父と雄翔館が
自分の地元にあることを知り、
訪れることができました。実
際に数々の遺書と遺品を見て、
自分が小さく思えました。今、

私は十五歳です。でも、十八
歳、十九歳の方がお国のため
に戦っている姿がなんともか
っこよく思えます。今回、こ
の場所でたくさんの方が知

れてよかったです。また大き
くなったらここへ訪れて、自
分の成長を実感したいと考え
ます。最後に、今の私が過ご
している当たり前は、当たり
前ではないことを常に心に置
き、たくさんの特攻兵のみな
さんのように勇ましい人にな
りたいと思いました。また、
この今日の学びを伝承してい
きたいです。

特攻兵のみなさんは、私の
憧れです。

令和五年十二月

茨城県神栖市 神舎様

そういう時代だったと言っ
てしまえばなんです、国を
思い故郷を想い……若くして
亡くなった先輩たち。

言葉がありません。彼等が
求めていた国が、故郷が、い
ったい何であったのか？自分
なりに考えてみたいと思いま

す。

令和五年十二月

住所・氏名記載なし

戦争は、二度と起きてはい
けないことだと思いました。
大切な人を失うなんて、私に
は無理です。

遺書や遺品を見てとても悲
しくなります。何年たっても
戦争で沢山の命が奪われたこ
とは忘れません。頑張って命
をかけて戦ってくれて、あり
がとうございます。という気
持ちでいっぱいです。生まれ
変わったら幸せで暮らしてい
ますように。

令和五年十二月

埼玉県幸手市 藤田様

たくさんの方の若い命の犠牲に
よって、日本の平和があるん
だなと強く心を動かされまし
た。

日本がいつまでも平和であることを強く願います。多くの犠牲になった人々のために

令和五年十二月

茨城県水戸市 吉田様

事務局日誌

六月

八日

評議員来局

於 事務局

湯原評議員が評議員会の事前調整のために来局した。

十三日

慰霊祭反省会

於 武器学校

慰霊祭の反省会を実施

参加者

武器学校

谷山広報援護班長

他2名

海原会 平野事務局長
十五日

六月定例理事会

於 ホテル

グローバルビュー土浦

出席者 宮本理事長、星

指副理事長、平野理事、

篠田理事、塚理事、行方

参与

評議員会

於 ホテルグローバルビ

ュー土浦

出席者 理事会メンバー

他

小野評議員、明石評議員、

湯原評議員、石引評議委員、

巻島評議員 六車顧問

問

二十一日

資料収集支援

於 事務局・雄翔館

皇学館大学四年の二宮様

が卒業論文作成のための、

資料収集に来局した。

二十六日

三者連絡会

於 海原会事務局

出席者

予科練平和記念館長

同 豊崎学芸員

阿見町観光ガイド会長

同 寛田様

七月

一日

予科練平和記念館

運営委員会

於 予科練平和記念館

平野事務局長が出席

六日

大東亜戦争全戦没者慰霊

団体協議会慰霊祭

於 靖国神社

宮本理事長が出席

七日

阿見町子ども会球技大会

於 阿見町総合運動公園

篠田副理事長と平野事務

局長が出席

【お知らせ】

海原会機関誌「予科練」では会員の皆様からの投稿記事を募集しております。

- ・ 同窓の方の思い出
- ・ 予科練・海軍に関わる事
- ・ 慰霊・顕彰への思い
- ・ 海原会へのご意見
- ・ 「予科練」へのご意見等

お気軽にお寄せください。

【原稿のお送り先】

〒300-0301

茨城県稲敷郡阿見町

青宿489-1 慎輝ビル 3階

公益財団法人 海原会 事務局

電話：029-886-5400

[E-Mail]

y-hirano@yokaren.jp

海原会会員の皆様へ

小さくてもあたたかい

一日葬 家族葬

お葬式のご依頼や
「もしものとき」に
備えた事前のご相談
年中無休で承ります

相談見積 **無料**

お客様満足度
99%

自宅葬、一日葬、お別れ会のほか、
ご希望に合わせた
お葬式プランがご用意しています。

※当社施行客アンケート調べ

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期しています。

お墓

お墓のことなら何でもご相談ください。
墓石工事は信頼の10年間の保証書付きです。

墓所工事

標準価格
(10万円以上)の

10%割引

サービス提供エリア:
関東・関西・東海



「お墓のお引越しガイド
& 事例集」

無料で資料を差し上げます。

お葬式

葬儀一式をセット化した「葬儀式
セットプラン」を各種ご用意。最適
なプランをお選びいただけます。

葬儀

祭壇標準価格の

20%割引

※一部斎場、一部商品を除く。
新花で送る家族葬は
優待料金
サービス提供エリア: 関東



「お葬式の流れが
わかる100項目」

無料で資料を差し上げます。

お仏壇

仏壇店は首都圏に2店舗(国分寺・千葉)。
伝統型仏壇や家具調仏壇、手
元供養商品まで豊富な品揃えです。

仏壇

店頭価格の

25%割引

※ただし、催事特価品と
仏具小物、手元供養商品
は対象外
サービス提供エリア: 関東



「お仏壇カタログ」
「特選 お位牌」

無料で資料を差し上げます。

お問い合わせは
海原会事務局へ

029-886-5400

お問合せの際は、「予科練を見た」とお申し出ください。

MAO
MEMORIAL ART OHNOYA



メモリアルアートの大野屋

<http://www.ohnoya.co.jp>



「予科練」第48号 9・10月号

令和6年9月1日発行 発行人 宮本忠明
(隔月奇数月1回1日発行) 編集人 塚 純一

発行所 下

300-0301 公益財団法人 海原会
茨城県稲敷郡阿見町青宿489番地1
(慎輝ビル3階)

FAX 029-886-5402
029-886-5401
029-886-5400

郵便振替
定価500円